

現行の高齢社会対策大綱における  
数値目標の進捗状況  
(研究開発・国際社会への貢献等)

# <研究開発・国際社会への貢献等>

	項目	数値目標	大綱策定時 (2018年2月)	目標年限時	最新値 (2024年4月)	達成状況	数値目標を達成できなかった理由・要因	担当府省
1	限定地域での無人自動運転移動サービス(※1)	全国普及(※2) (2025年目途)	—	— (目標年限前)	1件 (2023年)	— (目標年限前)	—	デジタル庁
2	ロボット介護機器の市場規模	約500億円 (2020年)	24.4億円 (2015年)	— (※3)	— (※3)	—	「日本再興戦略」において本目標が設定された2013年はロボット介護機器の市場が黎明期にあり、概算で設定したものの介護現場で導入が進んだ機器は当時の見通しとは異なっていたため、当該項目に係る数値の把握は行っていない。 他方で、販売価格は当時見通しの約10分の1程度となっているため、販売台数(※4)から換算をすると数値目標を達成している。	経済産業省
3	医療機器の輸出額(※5)	約1兆円 (2020年)	6千億円 (2015年度)	9千9百億円 (2020年)	1兆9億円 (2022年度)	達成	—	経済産業省
4	革新的医療機器の実用化(※5)	5種類以上 (2020年)	—	2種類 (2020年)	5種類 (2023年)	2023年において達成	—	経済産業省
5	国内医療機器市場規模(※5)	3.2兆円 (2020年)	2.7兆円 (2015年)	3.9兆円 (2020年)	4.2兆円 (2022年)	達成	—	経済産業省

※1 米国自動車技術者協会（SAE）が定めるレベル4の遠隔型自動運転システムによるサービスの普及。

※2 各都道府県で1件以上。

※3 目標変更に伴い、2018年以降当該項目に係る数値の把握は行っていない。

※4 販売台数は、経済産業省におけるロボット介護機器の開発支援案件を対象としたフォローアップ調査で把握している数値である。

※5 「医療機器の輸出額」、「革新的医療機器の実用化」及び「国内医療機器市場規模」に関する数値目標はいずれも医療機器全般のものである。 1

## < 研究開発・国際社会への貢献等 >

	項目	数値目標	大綱 策定時 (2018年2月)	目標 年限時	最新値 (2024年4月)	達成状況	数値目標を達成できなかった理由・要因	担当府省
6	福祉用具の実用化 (助成事業の支援終了後、3年経過時点での市場製品化率)	毎年度 50%以上	51% (2016年度)	59.7% (2017年度) 59.5% (2018年度) 59.7% (2019年度) 59.2% (2020年度) 58.8% (2021年度)	58.2% (2022年度)	達成	—	経済産業省